

農業体験学習(田植え)

2018. 5. 3 (ヨシクマ新聞より)



【泥に足を取られながら田植えを体験する五郷の児童生徒】

今年度からコミュニティー・スクールの宏行校長と同中学指定を受けた熊野市校(高田有治校長)は、1日、五郷町の水田で田植え作業を行った。

コミュニティー・スクールの保護者や地域住民と共に、地域ならではの創意工夫を活かし「保護者、地域とともに子どもを育てる」学校。田植えは今年度最初の取り組みとして、地元の「ふる郷創生実行委員会(吉田和男委員長、大橋秀行世話人)とともに児童生徒が田植えを体験した。

同委員会は五郷の活性化を目的に「いさと会」「区長会」「婦人会」「五楽会」「五郷消防団」はじめ地元建設・建築会社ら有志で組織している。五郷小、中学校とはこれまでもJ・A三重南紀の協力を得て、地区の小中学校と共に低農薬・有機米の「コシヒカリ」ホタルの光の栽培に取り組んでいる。

この日は中学生3人と小学生12人、教員会員ら合計約40人が参加。生徒を代表し、五郷中の前川秀也生徒会長が挨拶。大橋世話人が「農業は体を動かし健康になる。農業はきつい・汚い・危険の3Kと言われることもあったが、今や健康・

実りの秋に思い馳せ

五郷 児童生徒が田植えに汗

希望・環境の3Kの最も大事な仕事になりました。健康で楽しく、農業をこの田んぼでやっていきた。力を合わせてが育過程や苗の植え方

などを指導した。この後、児童生徒たちは早速田んぼに入り、田植えを開始。子どもたちは泥に足を取られながら、実りの秋を思い浮かべ農に親しんでいた。

今後は6月に草取りを、9月上旬に稲刈りを予定しており、収穫した米は学校での収穫祭や「いさと秋まつり」の景品、婦人会の活動などに利用される。



今年度から「ふるさと・五郷」にはこりを持ち、心豊かたくましく生きる力を育むためにスタートした「五郷学習」の一環として、学校運営協議会のメンバーでもある、「ふるさと創生実行委員会」「五郷婦人会」の協力をえて、五郷小と五郷中で合同農業体験学習を実施しました